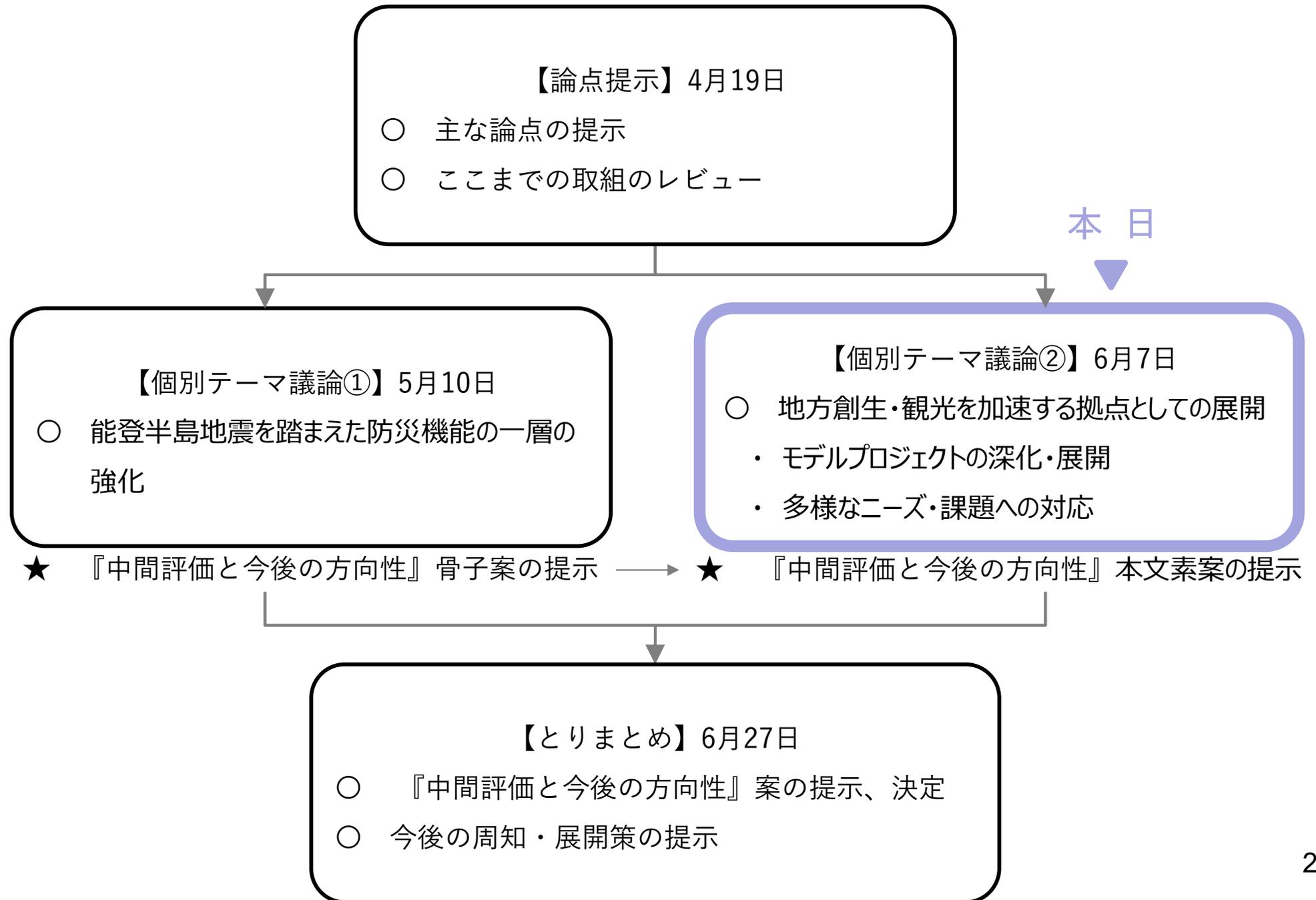


本日の論点

国土交通省 道路局
企画課 評価室
令和6年6月

本日も議論いただく内容



【各論】

【Ⅱ：地方創生・観光を加速する拠点としての「道の駅」の更なる展開】

(Ⅱ-1：モデルプロジェクトの深化・展開)

… **資料2**

③ 地域全体の発展を牽引する「道の駅」のあり方やその手法はいかにあるべきか

(Ⅱ-2：「道の駅」に求められる多様なニーズ・課題への対応)

… **資料3**

④ 観光拠点として滞在や周遊観光を促すための方策はいかにあるべきか

⑤ 地方創生の拠点として多様化する地域ニーズ(※)にいかに対応すべきか

※ 例：交通結節機能、物流拠点機能、ドローンポート、車中泊 等

⑥ 自家用車での来場を前提としない、人中心の「道の駅」とはどうあるべきか。

⑦ 現場ごとの個別的課題への対応を強化するためにはどのような支援が有効か



『2040年、道路の景色が変わる』における「道の駅」のイメージ図



『WISENET2050・政策集』のコンセプト

これまでの主なご意見

- ・意志を持って戦略的に、組織的に「第3ステージ」の「道の駅」をつくる仕組みを強化すべき。
- ・「道の駅」単独の発展だけではなく、産業や福祉など様々な部署の連携による、まち全体の発展を意識する段階に来ていると感じる。
- ・住民にとって「道の駅」がどういう位置づけであるかが非常に重要であり、住民と一緒に「道の駅」をつくっていく姿勢を第3ステージの概念図に表せると良いのではないかと。
- ・国土形成計画の「地域生活圏」の定義において、「道の駅」に何が期待されるかが大事なポイントである。
- ・「道の駅」を、立寄先の接点として活用した観光振興を行い、インバウンドまで広げていくことが必要ではないかと。
- ・インバウンド対応は、「道の駅」を中心に、どんなことができるのか？といった、コンテンツづくりが重要ではないかと。
- ・「道の駅」が地域資源を磨きあげて、それを商品化している「道の駅」もある。その情報を展開していくことも大切ではないかと。
- ・「道の駅」でやるべき関係人口の呼び込み策とはどういったものがあるのかを考えることが必要ではないかと。
- ・イタリアのアルベルゴ・ディフーズ的な考え方など、ハードだけでなくソフトで「道の駅」を捉えていくことも重要。
- ・にぎわいづくりをして人が集まることを考えるならば、いざ発災した時の対応をあわせて検討する視点が必要。